

ママの保健室

今回のテーマは「子宮頸がん・ワクチンのこと」

妊娠を機に子宮頸がんの検診は病院で受けますが、産後は子育てや日々の暮らしの忙しさで検診から遠ざかっているママが多いはず。そして女の子を育てるママが気になるのはワクチン接種のこと…。今回は、釧路市健康推進課保健師の岩原千夏さんに、最新の情報を教えていただきました。

質問1



釧路管内の
子宮頸がんの罹患率は?
また世代として多いのは?

A

子宮頸がんは毎年、全国で約1.1万人の女性がかかる病気です。全国的に子宮頸がんの年齢調整罹患率は、卵巣がんや乳がんなどの他の女性特有のがんに比べ高く、20~40歳代で近年増加傾向にあります。令和元年の釧路管内における子宮頸がんの年齢調整罹患率は人口10万人あたり16.8人で、全道の15.0人を若干上回っています。

質問2



子宮頸がん検診の受診率は
いかがですか?
ここ数年での受診率の動向は?

A

子宮頸がん検診は、20歳以上の偶数年齢の女性を対象としています。令和3年の釧路市の受診率は15.1%で、全道の16.3%を若干下回っています。受診率の動向は、釧路市、全道ともに小幅ではありますが、上昇傾向にあります。

質問3



釧路市の子宮頸がん検診の
情報が知りたいです

A

子宮頸がん検診は、下記の7つの検診実施機関で受診できます。実施日時等につきましては直接、電話で検診実施機関にお問い合わせください。

- ・釧路赤十字病院 ☎0154-22-7171
- ・くしろレディースクリニック ☎0154-32-1020
- ・市立釧路総合病院 ☎0154-41-6121
- ・足立産婦人科クリニック ☎0154-25-7788
- ・釧路孝仁会記念病院 ☎0120-133-527
- ・釧路労災病院 ☎0154-22-7191
- ・がん検診センター ☎0154-37-3370

質問4



ワクチンのこと、副作用がでて
被害に遭われた方の声など報道で
目にすると正直怖い…と不安になります。
女の子がいるママ達もワクチン接種について
躊躇する方もいるかと思います。最新の
ワクチンの情報、安全性など教えてください。

A

HPVワクチンは初めての性交渉前、特に16歳頃までに接種するのが最も予防効果が高いとされており、公費接種には期限(小学校6年生~高校1年生の女子)があります。また、HPVワクチン接種の積極的な勧奨が差し控えられていた時期に定期接種の対象であった方(平成9年度~平成18年度生まれの女子)へは「キャッチアップ接種」として、公費での接種機会が設けられています。令和5年4月からは、従来の2価ワクチン、4価ワクチン(サーバリックス、ガーダシル)よりも予防範囲の広い9価ワクチン(シルガード9)を選択できるようになりました。ワクチンの種類によって接種のタイミングや回数が異なりますので、どのワクチンを接種するかは医療機関に相談してみましょう。

副反応について、接種した方の約半数の方に接種部位の痛みや腫れなどがみられることがあります。また、極めてまれですが、重い健康被害が生じた場合はお住まいの市町村の予防接種担当部門にご相談ください。

ワクチン接種には効果とリスクがありますので、十分に理解したうえで、接種を判断するようにしましょう。また、ワクチン接種の有無にかかわらず、定期的に子宮頸がん検診を受診し、早期発見・早期治療に努めることが大切です。

●教えていただいたのは
釧路市健康推進課 保健師
岩原 千夏さん



子宮頸がんはワクチン接種で
予防し、検診で早期発見に努めま
しょう。心配なことがあればご相
談ください。皆さまの健康を応援
しております!